


園だより 2月

「いかに幸いなことでしょう あなたによって勇気を出し
心に広い道を見ている人は。」
詩編 84 篇 6 節




最高気温が 10°C に満たない日が続いた 1 月の毎日でした。空気は冷たいのですが、園庭にはお日様の光がたっぷり注がれ、子どもたちの多くは防寒上着を着ることなく身軽に活動し過ごしていました。

お正月の雰囲気親しむ「獅子舞い」から始まった 1 月。各部屋にもお正月の伝承あそびの道具が出され楽しむ子どもたち。けん玉やひも付きコマに挑戦したり、指先で小さなコマを回したり、覚えた文字を一生懸命に探すかるた取りを楽しんだり、思い思いに遊びを展開する子どもたち。異年齢で交わり穏やかに過ごす子どもたちに三学期ならではの様子がそこここで展開され、コロナ禍の中ですが保育の日常が守られていることに感謝でした。

1 月は久方ぶりに年少組のクラスで継続して一緒に過ごすときが与えられました。通常ですと園全体の子どもたちの成長の中、年少組の子どもたちとしての成長に喜びを感じるこの時期なのですが、クラスに加わり一人ひとりの心の動きを真正面で受け止め呼応し合い過ごすとき、年少組の今だからこその子どもたちのエネルギー「生きる力」の強さを改めて感じ感動を覚えるひと月となりました。それぞれがそのときの心持ちを表現しながら過ごすとき、その表現の仕方はとっても分かり易かったり、微かな表現であったり、実は表現とは正反対の心持ちであったりと様々でした。けれども、どの様な表現にも当然のことですが、しっかりとしたその子その子の思いが存在し、発信していました。そしてその思いは留まることなくどんどん変化もしていきました。その「今」の心持ちの精一杯の表現をどの様に捉え、受け止め、そこにどれほどの心を寄せ寄り添い、見守り、支えることが子どもたちのこれからの育みに繋がることであるか、深く考え思いを廻らす本当に恵みのときを与えて頂きました。

2 月の短いひと月、コロナの状況が計り知れない日々となることは予測されますが、子どもたちの生きる力溢れる豊かな日々であることは変わりません。大切に過ごして参りたいと願います。ご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。



園長 駿河 幸子

